

軍事極秘

昭和二十年三月

整理番號第貳號

自二月二十八日

至三月一日

戰鬥詳報

88682

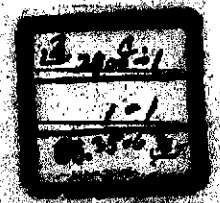
Handwritten mark

RS 95296

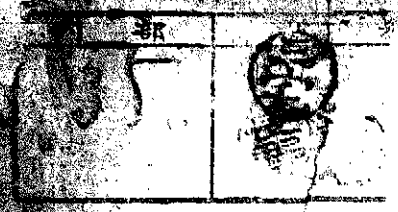
Cincpac-Cli. C. P. 68

B- 26935
OKINAWA 24 JUN

軍事史科



沖繩 第三野戰高射砲隊司令部



①

Handwritten notes: # 156252

進	達	先	整理番號	部	分
第三十二軍司令官	星野義至	武部	武部	武部	武部

21/11/1942

一 戰前 戰前詳報目次
 其於之 彼我形勢 概要

其 一 我形勢 概要
 其 二 敵形勢 概要

二 戰前 = 影響ヲ及ニタル氣象地形及住民地、狀
 態

三 我、兵力
 四 敵、團、體、號、機、種、機、數、裝、備、資、質、及、戰、法
 五 戰前經過及關係部隊、動作、連絡施設、狀
 態

其 一 戰前經過 1. 2月28日 戰前經過
 其 二 關係部隊、動作 2. 3月1日 戰前經過

其 三 連絡施設、狀態

戰前於之 彼我形勢、概要

其ノ一 我形勢ノ概要
其ノ二 敵ノ形勢ノ概要

七 觀點過失其ノ他將來ノ參考トナルベキ事項

八 附表

第一 軍隊區分及任務一覽表

第二 高射部隊兵力一覽表

第三 高射部隊戰果一覽表

第四 高射部隊死傷表

第五 高射部隊兵器損耗表

九 附圖

第一 (其ノ一) 高射部隊配置及通信網要圖

第二 (其ノ二) 敵機來襲狀況要圖 (自三月八日 至三月十一日)

第三 (其ノ三) 敵機來襲狀況要圖 (自三月七日 至三月九日)

第四 (其ノ四) 敵機來襲狀況要圖 (自三月五日 至三月七日)

第五 (其ノ五) 敵機來襲狀況要圖 (自三月八日 至三月十一日)

第六 (其ノ六) 敵機來襲狀況要圖 (自三月五日 至三月七日)

十 附錄

第一 情報

自二月十八日 至三月一日 戰鬥詳報
一 戰鬥前ニ於ケル我形勢ノ概要



軍隊區
分任務及
兵々配置

其ノ一 我形勢ノ概要
軍高射砲隊ハ依然主力ヲ以テ北及中飛行
場ヲ一部ヲ以テ那霸碇泊場ノ掩護ニ任ズ
ルト共ニ情況逐次逼迫化スルニ俾ヒ陣地
諸施設及築城作業ノ増進並ニ教育訓練ニ
從事ス

軍隊區分及各部隊ノ任務附表第一ノ如シ
高射部隊ノ配置附圖第一其ノ一其ノ二ノ
如シ

我高射部隊ハ一〇一〇南西空襲及一月三
日四日並ニ一月二十一日二十日ノ對空
戰鬥ニ參加シ幾多ノ貴重ナル戰訓ヲ得タ

御嘉尚 一月二十一日二十三日、戰鬥ニ於テハ赫
御言葉々タル戰果ヲ發揚シ 畏クモ御嘉尚ノ御
賞詞 言葉ノ傳達アリ重ネテ軍司令官ノ賞詞ヲ
拜受 受ケ高射部隊將兵一同愈々感奮興起戰技
ノ向上ニ邁進シ敵機心墜ノ意氣ニ燃エマ
リ

訓練 司令部各部隊ハ 體驗セル放訓ヲ基トシ
射撃ニ関スル訓練ヲ重ヌルト共ニ特ニ幹
部ニ對シテハ急降下目標ニ對シ各陣地ノ
特性ニ應ズル射撃指揮ニ就キ真ニ初渾心
墜ノ域ニ達セシムル如ク及復演練シ諸戰
技ハ累次向上ヲ見幹部ノ指揮技能亦逐次
向上ノ一途ニ在リ

高射部隊 二月初旬ヨリ敵機B24ノ本島偵察行動活潑
ニ即遊 化シ中旬以降連日正午前後低空ニテ高射
砲威力圏外ヲ哨戒偵察スルニ鑑ミ止レガ
封殺ニ関スル意見ヲ具申シタルニ之カ實
行ニ関スル軍命令ニ基キ二月二十二日高
射砲及機關砲ノ一部ヲ現配置ニ於ケル高
射砲ノ威力圏外ニ邁進運用シ敵機ヲ擊墜
スルニ決シ在邦高射砲隊八十大隊第一
中隊ノ先ヅ北飛行場西側都屋附近ニ指揮セ
シノ先ヅ北飛行場西側都屋附近ニ機関砲
隊百五大隊ノ二門ヲ國吉屋取及残波岬附
近ニ遊動陣地ヲ占領B24ノ擊墜ニ專念セシ
ム

二月二十五日以降邦霸港ニ連日入港船隻
意見具申並ニ
實施

直前、あり硫黄島上陸作戦ニ策動シ機動部隊、
 形勢、関東地方來襲並ニB24ノ執拗ナル偵察行動
 二鑑ミ緊急姿勢乙、態勢ヲ以テ警戒中ニ
 十六日魚情報ニ依リ二十八日在支及太平洋
 方面米空軍ハ本土及南西諸島台湾ノ爆
 善企圖ヲ有シアルヲ知り至嚴ナル警戒監
 視ヲ續行シアリタリ

其ノ二敵ノ形勢ノ概要
 敵ハルリニ島上陸後新ニ中部太平洋ウルシ
 方面ヨリ有カナル機動部隊ヲ抽出二月十九日
 硫黄島ノ上陸ヲ開始スルヤコレニ呼應シ一部
 機動部隊ヲ硫黄島及本土近海ニ進出セシメ敵
 次ニ亘リ関東地方ニ來襲スル一方比島ヨリハ
 陸上機ヲ以テ台湾ニ來襲シ我小笠原諸島ニ對

スル間接牽制、南方ニ對スル補給路攪亂ヲ企
 圖シアリテ本島ニ對シテハ連日B24ヲ主トシテ
 西海岸線ヲ偵察シアリ其ノ他細部ニ関シ知得
 セル敵情ヲ録第一ノ如シ
 二戦斗ニ影響ヲ及シタル氣象地形及住民地ノ状
 態

人當日ノ氣象諸元左ノ如シ

二月二十八日
 一〇〇〇測定

東ノ風五七米 雲高六〇〇〇 雪量 四
 視程 五〇呎 天気 晴
 口日出 〇七二〇 氣温 二三度 月齡 一五四
 日没 一八〇〇 氣壓 七六〇 耗

三月一日

4. 六。測定

東南東 四米 雲高 六。 雲量 十

視程 八杆 天氣 曇

只一二。測定

東南東 六米 雲高 七。 雲量 十

視程 十五杆 天氣 曇

ハ日出 〇七二〇 氣温 一八度

月鈴 一六四 日浸 一八。

氣壓 七五八托

敵機ハ我高射部隊ノ火力ヲ避クル爲雲ヲ巧

ニ利用シ目標上空ニ達スルヤ急襲的ニ降下

スルノ舉ニ出デタリ

2. B29ハ本戦斗ニ於テ高度七千乃至一万飛行中

飛行雲ニ發生シ目標ノ發見容易ナリキ

3. 三月一日ハ雲高低ノ敵機ノ急降下後視認シ

得ル状態ニシテ射撃實施ニ困難ヲ感ジタリ

三我ノ兵力

高射部隊兵力表第二ノ如シ

四敵ノ團體號機種機数裝備素質及戰法

ハ敵ノ團體號第五十八機動部隊ナルモノノ如

シ

五機種機数

二月二十八日

三月一日

ボーイング B29

グラマン F4F F6F

グカートレモリスキ F4U

カ 4

グラマン TBF SB2C

四機

延 六〇〇機

3. 裝備

グラマン F4U^{FB}ハ二十挺機関砲及爆彈四丁五發ヲ裝備ス
カーナス SB2C^Cハ十二挺機関砲及爆彈數發ヲ裝備ス
グラマン及ゴアトシコロスキーハ「ロケット」砲四發ヲ裝備ス
ルモノノ如シ

4. 素質及戦法

イ 急降下銃爆撃

高度ニ〇〇〇〇〜三〇〇〇ニテ要地上空ニ
進入急降下(降下角三十度〜五十度)シ一〇〇〇
米附近ヨリ銃撃シツツ五〇〇米附近迄降
下投彈離脱ス
離脱高度ハ四〇五〇〇米甚ダシキハ一〇〇
米附近マデ降下スルコトアリ
急降下開始前及轉スルモノ多ク降下中
向変換不規行動ヲ爲スコトアリ

ロ 主トシテゴアトシコロスキ―(コルセア)一機ヲ
以テ先ヅ急降下シ少ニ高射砲火力ヲ牽制
シタル後グラマン^{FB}敵機ヲ以テ襲撃セリ
ハ雲上ヨリ飛行場ニ對シ高射砲ヲ使
ニ艦船ニ對シテハ主トシテロケット^{FB}彈ヲ使
用セリ
ロケット^{FB}彈ハ侵透力ヲ弱シアルモノノ如ク
且異種ノ恐怖音ヲ發ス
ホ 雲ノ利用
敵機ハ適時雲ノ利用ニ努メツツ目標ノ上
空ニ進入シ對空火器ノ火網ヲ避ケタリ
ハ敵機ハ超低空ヲ以テ高射部隊ノ照準^{FB}角
竝ニ峡谷山腹ヲ利用シ目標物ニ近接襲撃
ヲ爲シタルコトアリ

ト、ボートイシグ B29 ハニ乃至三機ヲ以テ常ニ及
 對方向ニ行動シ要地進入ニ方リテハ太陽
 ヲ背ニシテ侵入スルヲ常態トス
 五戰闘經過及關係部隊ノ動作並ニ連絡施設ノ狀
 態

其ノ一 戰鬥經過

二月二十八日戰鬥經過

前日ヨリ那霸港破泊中ノ船舶アリシヲ
 以テ在那霸高射部隊ハ〇六三〇警急姿
 勢ニ轉移シ監視警戒ヲ續行中
 〇九一三野里第一大隊東北方向ニ B29 一
 機ヲ發見シタルヲ以テ飛行場掩護高射
 部隊ハ警急姿勢甲ニ轉移ス
 〇九一五野里西南方向ニ於テ B29 一機高度五
 千八百ニ發見高射砲第一大隊北東中
 飛行場上空ニ於テ射撃ヲ開始シ良好ナ
 ル射撃ヲ得タルモ喜望スルニ至ラズ敵
 機ハ西方ニ旋回方向ヲ轉ジ西南進〇ル
 ニ〇雲中ニ機影ヲ没ス
 〇九三〇休宿姿勢ニ轉移セシム
 〇九四六西南方向ニ東北進中ノ B29 一機高
 度八千ニ發見高射砲第七十九大隊北東
 方向ニ至ラズ該機ハ北飛行場東北方ニ於テ
 一〇〇五 B29 一機那霸ニ進入スルヲ第一
 大隊第一中隊射撃シタルモ喜望ニ得
 ズ西南方向上ニ脱去セリ

B29 發見

戰鬥姿
勢

80AA 戰鬥

B29 發見
 〇九三〇休宿姿勢
 〇九四六西南方向ニ東北進中ノ B29 一機高
 度八千ニ發見高射砲第七十九大隊北東
 方向ニ至ラズ該機ハ北飛行場東北方ニ於テ
 一〇〇五 B29 一機那霸ニ進入スルヲ第一
 大隊第一中隊射撃シタルモ喜望ニ得
 ズ西南方向上ニ脱去セリ

B29 脫去

休宿姿勢

〇九三〇

B29 發見

79AA 戰鬥

戦中
一〇〇六 B29 一機 那霸方向ヨリ進入トノ
情報ニ接シ高射部隊ハ戦中姿勢ニ轉移

SOA 戦中

一〇〇七 高射砲第八大隊ハ威力圏ニ
入ルヲ待テ射撃ヲ開始シタルモ甚盛
スルニ至ラズ
一〇一七 東北方ニ西南進中ノ B29 ヲ発見
飛行場掩護高射部隊ハ火力ヲ集中シタ
ルモ甚盛ニ得ズ那霸方向ニ向テ
一〇二〇 在那霸高射部隊亦之ニ火力ヲ
集中シタルモ甚盛ニ得ズ西南方ニ
脱去ス
一〇三〇 東北方ヨリ中飛行場ニ進入ス
ル B29 一機 高度七千五百ニ発見第八大隊

SOA 戦中

脱去

隊射撃ヲ開始セシモ甚盛スルニ至ラズ
西南方ニ脱去ス
B29 一機 來襲状況附圖第二其ノ一其ノ二ノ
如シ

威力

爾後南北西方向ヨリ高度一萬内射ニテ
飛來シタルモ射撃スルヲ得ズ一一一七
南方ニ機影ヲ没ス一一二〇 警戒姿勢乙

警戒

三月一日 戦中経過
二十八日 B29 数機沖繩本島ヲ綿糸ニ偵察
シタルト那覇港碇泊船舶アルニ鑑ミ〇
六三〇 警戒姿勢乙ニ移行シ警戒中〇六
四五敵大編隊近接中ナルモノ如シト

情報入手

海軍情報ニ接ス

空龍水
敵機
行動

敵機
行動

茲ニ於司令部ハ軍情報通信ニ連絡右
海軍情報ノ詳細ナル通報ヲ要求セシ處
彼我不明機近接中トノ情報ヲ度ケ仍テ
直ニ右海軍情報並ニ軍情報ヲ指揮下各
部隊ニ通報スルト共ニ警戒監視ヲ嚴ク
ラシム

○七〇〇南西諸島全地區ニ襲撃報復令
セラレ軍高射部隊ハ直ニ戦事姿勢ニ移
行ス

第一回戦斗(〇七〇四)〇八一〇(附圖第ニ其ノ其ニ)
〇七一七グラマニF4F八機東南方ヨリ高
度約三〇〇〇航速一ニ〇ニテ本島手進
入在邦霸港船舶並ニ北及中飛行場ニ對
シ銃撃ヲ開始爾後〇八一〇ニ至ル間約

司令官
注意

百五十機殆ソド間斷ナク來襲スル敵機ハ
グアートルシコルスキーF4Uグラマン等
マンF4Fヲ主体トシ此ニ少敵機ノルリナ
SB2Cヲ含メルモノニシテ十ニ機乃至二十
四機編隊ヲ以テ主トシテ本島東南ヨリ
進入爾後ニ乃至ニ機宛急降下在邦霸港
船舶並ニ北及中飛行場着陸機ニ對シ銃
撃ヲ實施セリ
各隊ハ適切ニ目標ヲ選定シ戰訓ニ則リ
各種射法ヲ運用シ有効彈ヲ發射シ浴一
機ニ機ト專座ヲ確認シ將兵ノ志氣大ニ
昂ル
〇七四五司令部各隊ニ對シ初澤心機
眼前垂墜ヲ期スベシト注意ヲ發ス

隊亦此ノ趣旨ヲ体シ射撃ノ景況遂次良
好トナレリ

氣象

當時ノ雲高七〇〇。雲量一〇ナリ

戰果

本戰鬥ニ於テ収メタル戰果專座ニ機墜
害ヲ與ヘタルモノ六機ナリ

第二回戰鬥(ハ一〇〇九〇)(附圖第三其一二及第四)

敵戰法

本戰鬥間ニ來襲セル敵機ハグラマンF4G
ヲマンF4GカオートシコルスキーF4Uニシテ先ヅグ
トシコルスキー一機編隊ヨリ離レ急降下シ少

ニ對空火器ヲ牽制セシメタル後グラマン

F4GヲマンF4U連續的ニ急降下銃專ス敵機

ハ本隊ニ波ニ至リ高射砲陣地並ニ機墜砲

陣地ヲモ銃專ス尚波具知沖ニ機帆船ヲ發

見シタルモノノ如ク同部落西方海上ニ對

シテモ銃專ヲ開始ス第一回戰鬥ニ依リ敵

ノ戰法ヲ知悉シ得タルヲ以テ射專指揮ノ

適切砲手操作ノ正確ト相俟テ戰果大ニ與

第今隊リタリ特ニ中飛行場掩護ニ當ル第八十大

善戰隊ハ熾烈ナル銃專下沈着克々司令官ノ意

圖ヲ体シテ心中彈ヲ浴セタリ爲ニ司令官

ハ〇ハ〇三回大隊ノ射專良好ナルヲ賞ス

司令官尚北飛行場掩護ニ當レル第八十一大隊射

注意 彈ハ過近ニ失スル嫌アリタルヲ以テ〇ハ

四五司令官ハ同大隊長ニ對シ信管ヲ一秒

延シ射專時機ヲ早ムベシトノ注意ヲ發ス

ロケット彈在邦高射部隊ハ邦高港所在ノ船舶ニ對

候用シロケット彈ヲ以テ連續的ニ襲專シ來ル敵

機ニ對シ直距離待テ射撃ヲ以テ邀撃ス

機ニ對シ直距離待テ射撃ヲ以テ邀撃ス

機ニ對シ直距離待テ射撃ヲ以テ邀撃ス

戰果本戦斗ニ於ケル戦果甚盛ニ機損害ヲ與ヘタルモノ十七機

第三回戦斗(九〇〇一〇二〇)(附圖第五其ノ一)

敵機ノ九〇〇ヨリ一〇〇迄ノ來襲機ハ約六機ニシテ本回ハ敵機ノ來襲稍ニ閑散ナリ敵戦法ハ第一第二回ト大差無ク急降下

銃患ヲ主トスルモ次第ニ爆患ヲモ敢行スルニ至ル先ニ第二回ニ於テ敵機ノ那覇港

司令官所在船舶ヲ爆患スルヲ戦斗指揮所ニ於テ望見シ居リタル司令官ハ飛行場掩護高射

部隊ニ對シ「友ニ來襲スル敵ハ爆患編隊ナリト」ノ判断ヲ豫告シ注意ヲ喚起ス

一〇四六敵ハ渡具知所在ノ機帆船ヲロケツト彈ニテ爆患ス本戦斗ニ於ル敵ノ主タル

目標ハ飛行場所所在ノ着陸機及飛行場諸施設並ニ高射砲陣地ニシテ各隊ハ敵機ノ機

銃掃射ヲ受ケ人員ノ損害ヲ出シツツモ勇戦果敢ト甚盛ニ機損害ヲ與ヘタルモノ一機

ノ戦果ヲ擧ゲ得タリ
第四回戦斗(一〇〇一三二〇)(附圖第五其ノ二)

敵機ノ第四回ハ約延八十機來襲ス本戦斗中那覇上空ハ雲量次第ニ増加敵機ハ低雲ヲ利用

シ突如雲中ヨリ急降下那覇港所在船舶並ニ驅逐艦ヲ急襲北及中飛行場ニ對シテハ

列續ニ銃患ヲ加フ在那覇高射部隊及七飛行場掩護高射部隊ハ固疾待今射ヲ敢行

シ必中彈ヲ集申ス
此ノ間軍情報通信聯絡隊及機間隊(三二〇高

2146

電波警地ヨリハ電波警戒機ニ依リ後續敵編隊ノ
 或機ノ情報ヲ殆ンド間断ナク通報シ來ル一〇三
 協力五司令官ハ氣象狀態並ニ敵ノ戰法ヲ考慮
 司令官シヨリ電上ニアル敵機ノ爆音追遠照準シ度
 注意シテ電上ニアル敵機ノ爆音追遠照準シ度
 下ニ降下スルヤ直ニ照準ヲ完了シ所謂「腰
 ガメ」式ニ射撃シ以テ毒塗ヲ期スベキ旨ノ
 注意ヲ與フ
 爾後各隊トモ射撃ニ困難ナク氣象狀態ヲ
 克服シ終始敢斗セルモ隊ニ毒塗スルニ至
 ラズ
 第五回戰事(二二三〇—二二三三〇) (海圖第六其ノ二)
 敵機ノ敵ハ益々執拗ノ度ヲ増シ第五回延泊モキ
 行動機來襲セリ
 二二三三〇左ノ如キ單情報ニ特ス

情報敵五十八機動部隊ハ那霸基点百五十七度
 二百里」
 五十八機動部隊ハ二十七日硫黃島南西海
 面ニテ補給後西進ス三月一日〇七〇五以
 降沖繩島沖大東島ニ來襲シツツアリ」
 驅逐艦第五回ニ於ル敵機ノ目標モ那霸港所在船
 沈没 船對空火器陣地ニシテ特ニ一—ニ五以降
 グラマン陣ウオトシコルスキ—
 陣ニ十數機ニテ碇泊中ナル驅逐艦ニ對シ
 猛烈ナル銃爆毒ヲ敢行ス在那霸高射部隊
 ハ單縱列ヲ以テ急降下スル敵機ニ對シ全
 火力ヲ集中大ナル戰果ヲ擧ゲタルモ該驅
 逐艦ハ艦尾ニ直毒彈ヲ受テ右ニ傾斜一—
 五五沈没ス

飛行場掩護高射部隊モ五十八機動部隊航
 空機ノ殲滅ヲ期シ大イニ戰果ヲ擧ゲ一
 三。迄ニ在邦高射部隊ノ戰果ヲ合シ專
 戰果 墜三機損害ヲ與ヘタルモノ七機ニ及ブ
 第六回戰鬥(二三〇—二三三)(附圖第六其二)
 敵機ノ本戰鬥ヨリ敵機ハ渡具知海上ニ在リタル
 行動 敵隻ノ機帆船ヲ目標トシ約三十米ノ超低
 空ニテ東方山間ヨリ進入途中家屋道路等
 =銃毒ヲ加ヘツツ口ヲ下彈ヲ以テ機帆船
 ヲ爆毒一隻ヲ炎上セシム飛行場掩護部隊
 超低空ハ好機ヲ擲ミ適時射毒ヲ開始シタルモ敵
 侵入機ハ山間ノ低地ヲ縫ヒ超低空ニテ侵入シ
 且其ノ爆音ハ近距離ニ至ル迄聽取困難ナ
 リキ

軍司令官一三一〇司令官ハ軍司令官ニ對シ一三〇
 報告。迄ノ綜合戰果ヲ厄ノ如ク報告ス

專墜二十九機 毒破十九機

情報 一三一五司令部ハ厄ノ如キ軍情報ニ接ス
 敵機動部隊ハ二十七日硫黃島ヨリ西進セ
 ルモノニシテ現在在邦霸基点百五十七度百
 乃至二百哩ニ在ルモノノ如シ
 敵ノ企圖ハ上陸ニアラズシテ小笠原作戦
 =間諜スル後方遮断及牽制ト判断セラレ
 司令部ハ右情報ヲ直ニ指揮下各部隊ニ通
 報ス

第七回戰鬥(二三三—三五〇)(附圖第六其三)

敵機ノ第七回ノ敵機ハ主トシテ對空火器陣地並
 行動 北飛行場附近ノ顯著ナル道路部落及ビ誘

導路等ヲ銃毒不敵機ハ今朝來同様カラマ
 ン所カラマニ所ウカートニコルスキー^{PAU}ノ十敵機
 編隊ヲ以テ主トシテ東南ヨリ丘陵ノ間ヲ
 縫ヒ超低空ヲ以テ侵入途中道路部落ヲ銃
 毒ニ逐ニ一四四五座喜味部落ノ一部炎上
 スルニ至ル且一部ノ敵ハ北飛行場ニモ投
 彈誘導路上ノ假裝飛行機ヲ襲毒セルモ被
 害ナシトノ通報ヲ所在航空隊ヨリ受ケ
 氣象少ヨリ先一四〇〇頃ヨリ西方ニ青空ヲ認
 ヲ北飛行場上空ノ雲量四中飛行場上空ノ
 雲量九ニ減少雲高低キ所ニナセ〇〇高キ
 所ニテ二〇〇トナリ次第ニ射毒ニ好適
 ナル氣象状態トナル
 敵機飛行場掩護高射部隊並ニ在邦霸高射部隊

戰果ハ熾烈ナル銃毒ヲ冒シ日頃ノ訓練ト前同
 多ク、損害ヲ與ヘタリ
 戰訓ヲ活用シ其ノ四機ヲ毒墜シ九機ニ

綜合戰果
 高射砲隊ハ此カノ疲勞ノ色モ見セズ勇戰
 敢斗ニ毒墜三十六機損害ヲ與ヘタルモノ
 二十五機ノ戰果ヲ擧ゲ得タリ
 戰果一覽表
 去敵機一五〇機ヨリ天候次第ニ晴シ一五三〇

綜合戰果一五四。軍司令部ニ對シテ、如ク本日ノ
 報告綜合戰果ヲ報告ス
 毒墜三十六機損害ヲ與ヘタルモノ二十五機

一六三。空襲警報解除セラレ高射部隊ハ
警急姿勢ニ移行引續キ次ノ作戦準備ニ
遺憾ナキヲ期ス
警急姿勢ニ移行
遺憾ナキヲ期ス
警報速報一七〇。戦中要報速報ヲ電話ニテ軍司令
官ニ報告ス

其ノ後引續キ司令部ハ情報ヲ蒐集スルト
共ニ監視ヲ嚴ナラシメ居リタル處ニ一
司令部ノ
行
報急姿勢ニ移行
戦中要報速報
時ニ各隊ハ戦中要報速報ヲ移行ス
ニ〇ニ。司令官ハ各大隊長ニ對シ同時電
話ヲ以テ厄ノ如キ夜間戦中要報速報ニ関スル注意
ヲ與フ

從來ノ經驗ニ鑑ミ夜間射撃ノ祭火砲ヨリ
レ連地ニ又ハ要地ヲ暴露擡害ヲ蒙ルコトヲ
キヲ以テ眞ニ重要ヲ期待シ得ルモノト以テ
ハ射撃ヲ禁ズ

爾後各大隊ハ右司令官ノ指示ヲ徹底セシ
ムルト共ニ夜間戦中要報速報ヲ完了シ待機ニ
タルモノ爾後新報ヲ得ズ

二。四。南西諸島全地區空襲警報解除セ
テ各隊ハ警急姿勢ニ移行ス
司令官ハ祈禱ノ月明ヲ利用シテ敵機來襲
ノ算大ナリト判断シ引續キ諸情報ヲ蒐集
セシメタルモノ新報ヲ得ズルニ一。休
息中要報速報ニ移行セシム

其ノニ。関係部隊ノ動作
反響本戦中要報速報ニ敵機ト交戦シタ

空襲警報解除
一六三〇空襲警報解除セラレ高射部隊ハ
警急姿勢ニ移行引續キ次ノ作戦準備ニ
遺憾ナキヲ期ス
空襲速報一七〇〇戦斗要報速報ヲ電話ニテ軍司令
官ニ報告ス

司令部ノ
行 動
其ノ後引續キ司令部ハ情報ヲ蒐集スルト
共ニ監視ヲ嚴ナラシメ居リタル處ニ一

空襲警報
報 告 令
時ニ各隊ハ戦斗姿勢ニ移行ス
移 行 行
二〇二〇司令官ハ各大隊長ニ對シ同時電
話ヲ以テ厄ノ如キ夜間戦斗ニ関スル注意
ヲ與フ

從來ノ經驗ニ鑑ミ夜間射撃ノ際火砲ヨリ
出ル火焰ヲ敵ノ二番機ニ番機ニ照準セラ

レ陣地ニ又ハ要地ヲ暴露擲撃ヲ蒙ルコトヲ
キフ以テ眞ニ重要ヲ期待シ得ルモノ以外
ハ射撃ヲ禁ズ

爾後各大隊ハ右司令官ノ指示ヲ徹底セシ
ムルト共ニ夜間戦斗準備ヲ完了シ待機シ

空襲警報
報 告 令
タルモ爾後新報ヲ得ズ
二〇四〇南西諸島全地區空襲警報解除セ
レ各隊ハ警急姿勢ニ移行ス

司令官ハ折柄ノ月明ヲ利用シテ敵機來襲
ノ算大ナリト判断シ引續キ諸情報ヲ蒐集
セシメタルモ新報ヲ得ズ乃チ二一〇休

空襲警報
報 告 令
其ノニ 関係部隊ノ動作
反撃機 本戦斗間友軍在空機並ニ敵機ト交戦シタ

ルモ、ナニ北及中飛行場迄ニ小機飛行場
着陸機極メテ少数ナリ

電波兵
器協力

軍情報隊隊大及間隊(三〇高地)緊密神速ニ
ル運繋ニヨリ電波警戒機ノ情報ヲ常ニ入
手ニ取状來襲スル敵機ニ對シ適確ナル戰
斗準備並ニ戰鬥指導ヲ實施シ得タリ

其ノ三 連絡施設ノ状態

有線 既往ノ戰訓ニ鑑ミ飛行場掩護部隊幹線通
信網ノ裸線ハ切換ヘ及軍直通線ノ重備
成戰前ニ完成スルモ、那霸派遣部隊ノ裸線
備成未ク完備セズ、那霸部隊ニ於テ爆風ノ
爲メ一部断線セルモ其ノ大部ハ直チニ復
旧軍トシテ連絡及指揮下各部隊トシテ指揮連
絡ハ圓滑ニ實施シ得タリ

高射部隊通信網附屬第一其ニ其二

無線 残波岬轉進機関砲隊ト機関砲隊百五六隊
本部間ニ六號無線機ニ依リ戰鬥指揮實施
中意線通信所ニ敵機ノ直撃彈ヲ受テ無線
通信手ニ名任務遂行中壯烈ナル戦死ヲ遂
グ無線機ハ破壊セラレタリ
通信連絡ノ景況ハ極メテ良好ナリキ

六戰鬥後ニ於ケル我形勢ノ概要

其ノ一 我形勢ノ概要

後期戰鬥終了後銳意火砲彈藥ノ整備ヲ實施ス
準備ル小共ニ陣地ノ偽裝遮蔽並ニ之カ補強ニ
努メ戰鬥ニ遺憾ナカラス
司令部司令官極力關係諸部隊ト連絡ヲ密ニシ
行動情報ノ蒐集ニ努ム

其ノ二 敵ノ形勢ノ概要

來襲セル敵機動部隊其ノ後ノ行動不明ナ

ルモ我補給路ノ遮断ニ任ジ礮島島ルソ

ノ上陸作戰ニ策動牽制シアルヲ以テ引續

キ本島來襲ノ算大ナリ

七 齣 齣 過 矢 及其ノ他 參考トナルベキ事項

八 高射砲司令部ノ編成ニ就テ

司令部ノ編成内ニ勦々モ監視要員十五名ヲ

増加スルヲ要ス

理由

現編成ニ於テハ監視要員皆庶ニシテ直轄點

監視ノ配置不可能ナルノミナラズ自己司令

部ノ監視スル困難ナリ

九 兵器ノ増加裝備ニ就テ

十 種對空 双眼鏡一及十三年式双眼鏡三個

前項監視要員用トシテ増加裝備ヲ要ス

只自動車(乗用車ニ自動車一〇)ヲ司令部ニ

裝備スルヲ要ス

理由

指揮下部隊トノ連絡途ニ障礙莫ク他資材ノ

運搬及患者輸送ニ支障少カラズ

三 飛行場掩護部隊近ニ重傷患者ノ収容施設

ナク且之ヲ輸送機関ナキ爲負傷者ノ救護ニ

困難ヲ來セリ患者収容所及輸送機関ニ就キ

配慮セラレ度

四 敵ノ專墜セラレタル操縦員ヲ水上機ヲ以テ

収容ニ努メツツアリ也ハ防諜上浮虜トスル

ヲ避ケルカ或ハ操縦員ノ欠乏苦境打開ノ爲

シカノ目的ヨリスルモ、ト判断セラル
 射撃方向及第一群射一發ニ限テ
 從來數回ノ戦斗ニ於テ飛行場掩護部隊及在
 即霸部隊トモ各陣地毎ニ進入方向始ニ下限
 定セラレタルヲ以テ同方面ニ對シ向ヒ撃テ
 =留メ爾他ノ方向ニ對シ行ハ射撃セズ
 從ツテ火砲器材及兵員掩護施設ニ改造ヲ加
 ヘルト共ニ遂次残り少ナクナル彈藥ノ節約
 ト莫ニ初彈心墜ニ徹シ敵ニ眩惑セラレザル
 如クナシタル結果射撃ニ餘裕ヲ生シ波状ニ
 來襲スルモノニ對シテハ撃墜數増加ニ途
 々進リツツアリ

軍隊區分及任務一覽表

備考	隊部射高場行飛中及北在					隊部射高壩邦在					陣地		
	官司令隊砲射高戰野一十二第										司令官		
	機砲隊 第一〇五大隊	野戰高射砲 第八一大隊	野戰高射砲 第八〇大隊	野戰高射砲 第六大隊	野戰高射砲 第五大隊	機砲隊 第一〇四大隊	機砲隊 第一〇三大隊	野戰高射砲 第九大隊	野戰高射砲 第七大隊	野戰高射砲 第六大隊	隊	隊長	任務
	佐中村中	佐少上村	佐少津海	佐少藤須	尉中鏡小	尉中本光	尉大田中	佐少坂草	佐少本森	佐少龍大			
	HMA-大	AA-大	AA-大 (-中)	AA-中	AA-中	HMA-大	HMA-大	AA-大 (-中)	AA-大 (-中)	AA-大 (-中)			
	北側地區ニ展開シ北飛行場ヲ掩護ス	同	北飛行場南側地區ニ展開シ北飛行場ヲ直接掩護ス	中飛行場附近ニ展開シ中飛行場ヲ掩護ス任スト共ニ狀況ニ依リ北飛行場ニ火力ヲ増加ス	同	北飛行場北側地區ニ展開シ北飛行場ヲ掩護ス	鏡水東北側沿岸地區ニ展開シ入港船團及邦軍野港揚陸場並ニ其ノ附近ノ集積軍需品ヲ掩護ス	波止官團沿岸地區ニ展開シ入港船團及邦軍野港揚陸場並ニ其ノ附近ノ集積軍需品ヲ掩護ス	若狹町西新町、鏡水東北側ニ展開シ入港船團及邦軍野港揚陸場並ニ其ノ附近ノ集積軍需品ヲ掩護ス	波止官團沿岸地區ニ展開シ入港船團及邦軍野港揚陸場並ニ其ノ附近ノ集積軍需品ヲ掩護ス			

右

右

務

昭和二十三年
三月一日

高射部隊戰果一覽表

總計	隊部射高轟彈在						隊部射高塔炸飛中及北在						障地	部	隊	中隊	機種	敵手墜	損傷 與ハタルモノ
	HMAA	HMAA	AA	AA	AA		HMAA	AA	AA	AA	AA								
	一〇 四 大隊	一〇 三 大隊	八〇 大隊	七九 大隊	二七 大隊	海軍中隊	一〇 五 大隊	八一 大隊	八〇 大隊	七九 大隊	二七 大隊								
	二 中 中	三 中 中 一 中	一 中	三 中 中 二 中	二 中 一 中	一 中	三 中 二 中 一 中	三 中 二 中 一 中	三 中 二 中 一 中	一 中	三 中								
	F4U/F4F	F6F/F6F/F6F	F4U/F6F/F6F	F6F/F6F	SBR/F4U/F6F/F4F	F6F/F4U/F6F	F4U/F4U/F6F	F4U/F4U/F6F	F4U/F4U/F6F	F4U/F4U	F4U/F4U								
36	1 2	1 1 1	3	1 1	2 5 4	2 4 0 0	1 0	2 2	2 1										
25	0 0	0 1 0	2	2 0	1 2 2	1 4 2	0 1 1	3 0	3 0										

戰斗詳報附表第五

昭和二十年三月三日 高射部隊兵器損耗表

備考	種別																				
	隊部								種別												
	105HMA			104HMA			103HMA		21AA		20AA		19AA		27AA						
六AA第一大隊三中队 HMA第一大隊三中队 測速機使用不能	總計								45	3	3	9	12	8	3	7			二式信管		
	隊部								160	114	143	143	205	119	90	235	122	63	84	110	210
	第一	3507	286	604	354	227	242	296	253	341	574										
	第二	1324	180																		
	第三	1320	1320																		
	第四	789	789																		
	第五																				
	第六																				
	第七																				
	第八																				
	第九																				
	第十																				
	第十一																				
	第十二																				

六AA第一大隊三中队
HMA第一大隊三中队
測速機使用不能

損耗表

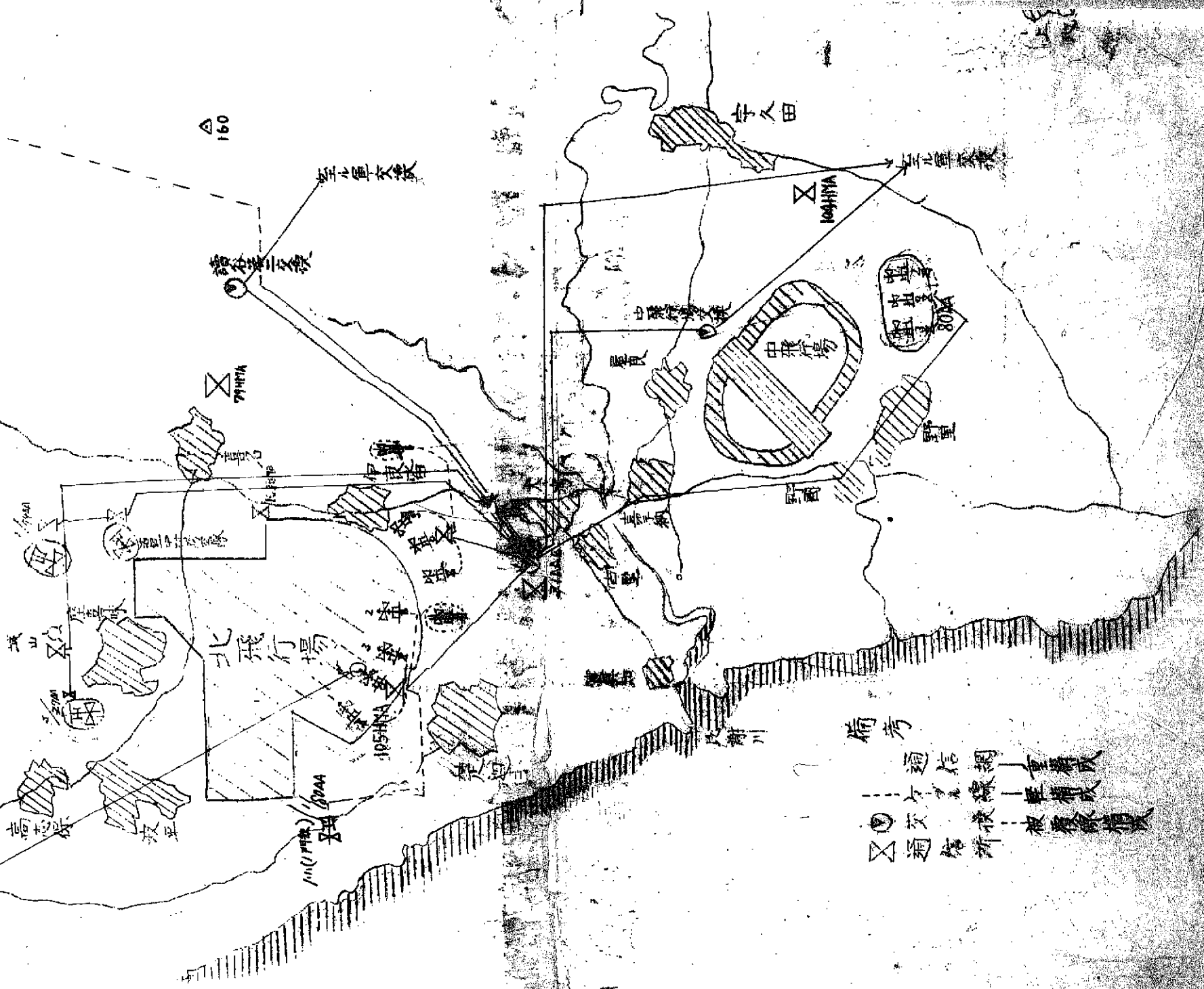
高射部隊配置並通網要圖

戰鬥要圖

高射部隊配置

△ 120 砲
⊗ 砲

△ 160

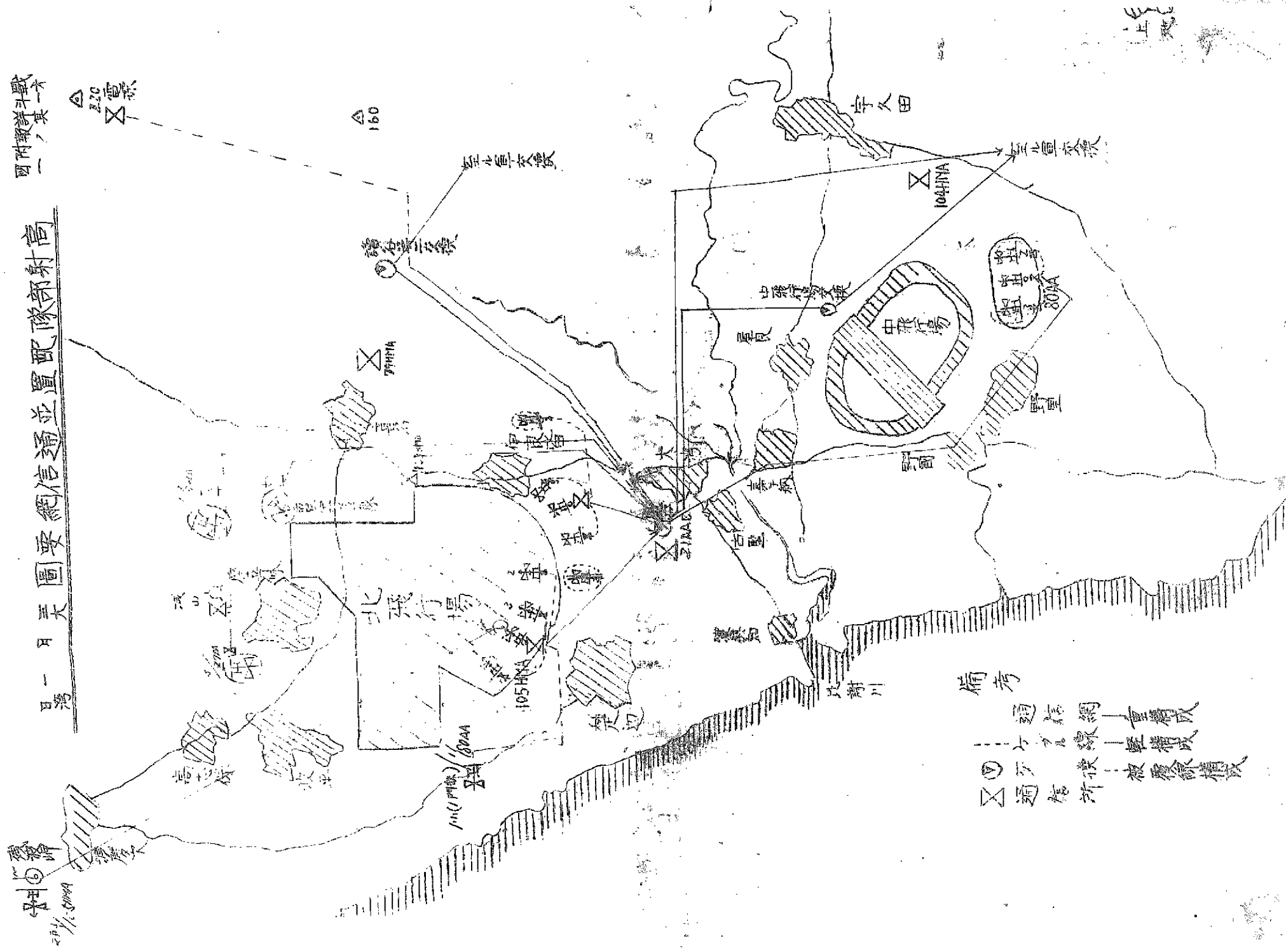


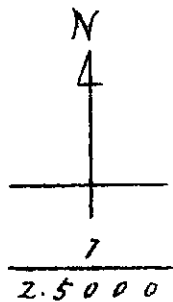
備考

- 通信網 — 重要
- 分界線 — 輕便
- ⊗ 交換機 — 被覆線
- ⊗ 通信所 — 被覆線

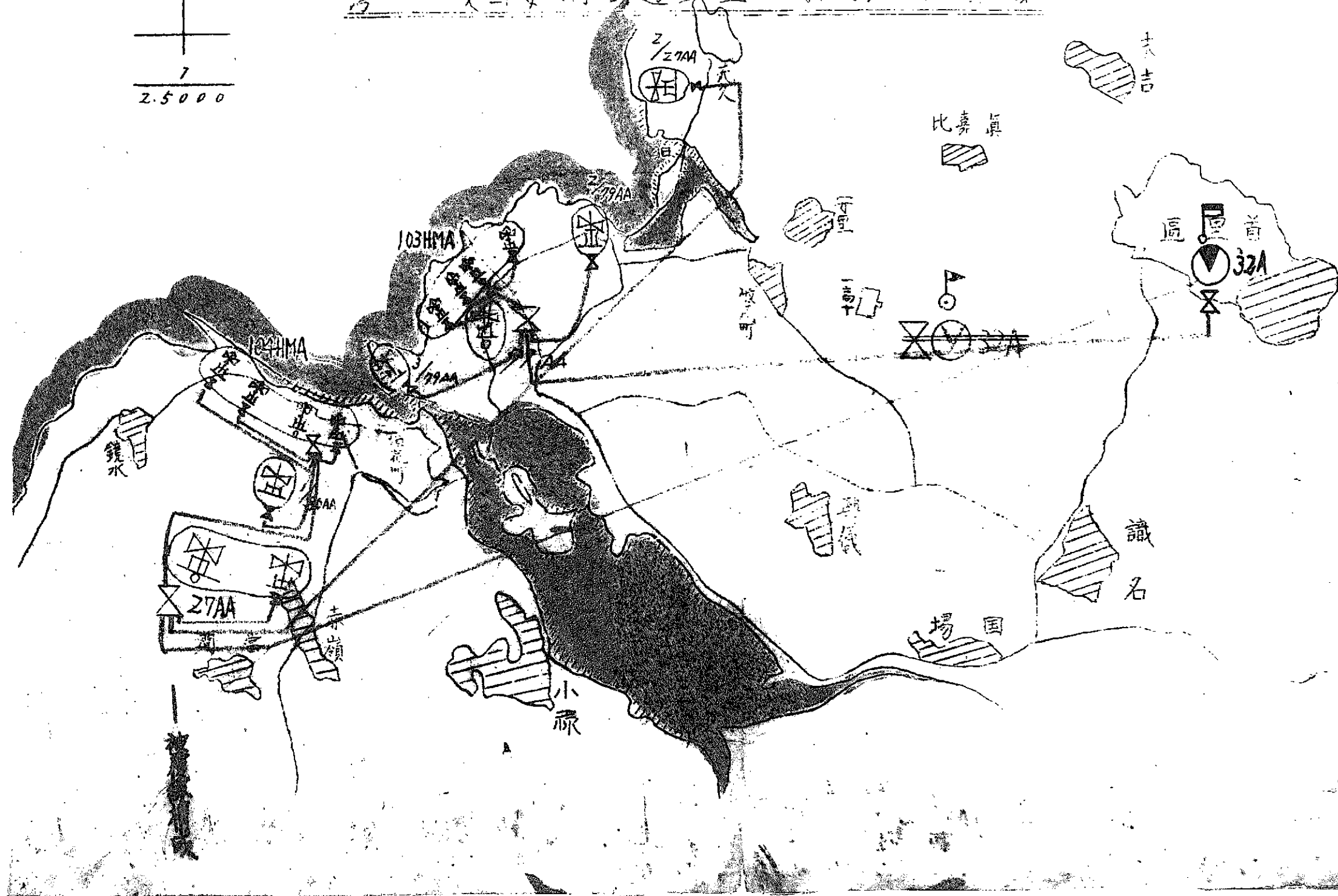
高射部隊配置並通信網要圖 一月一日

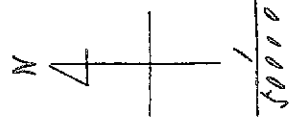
戰一第附戰





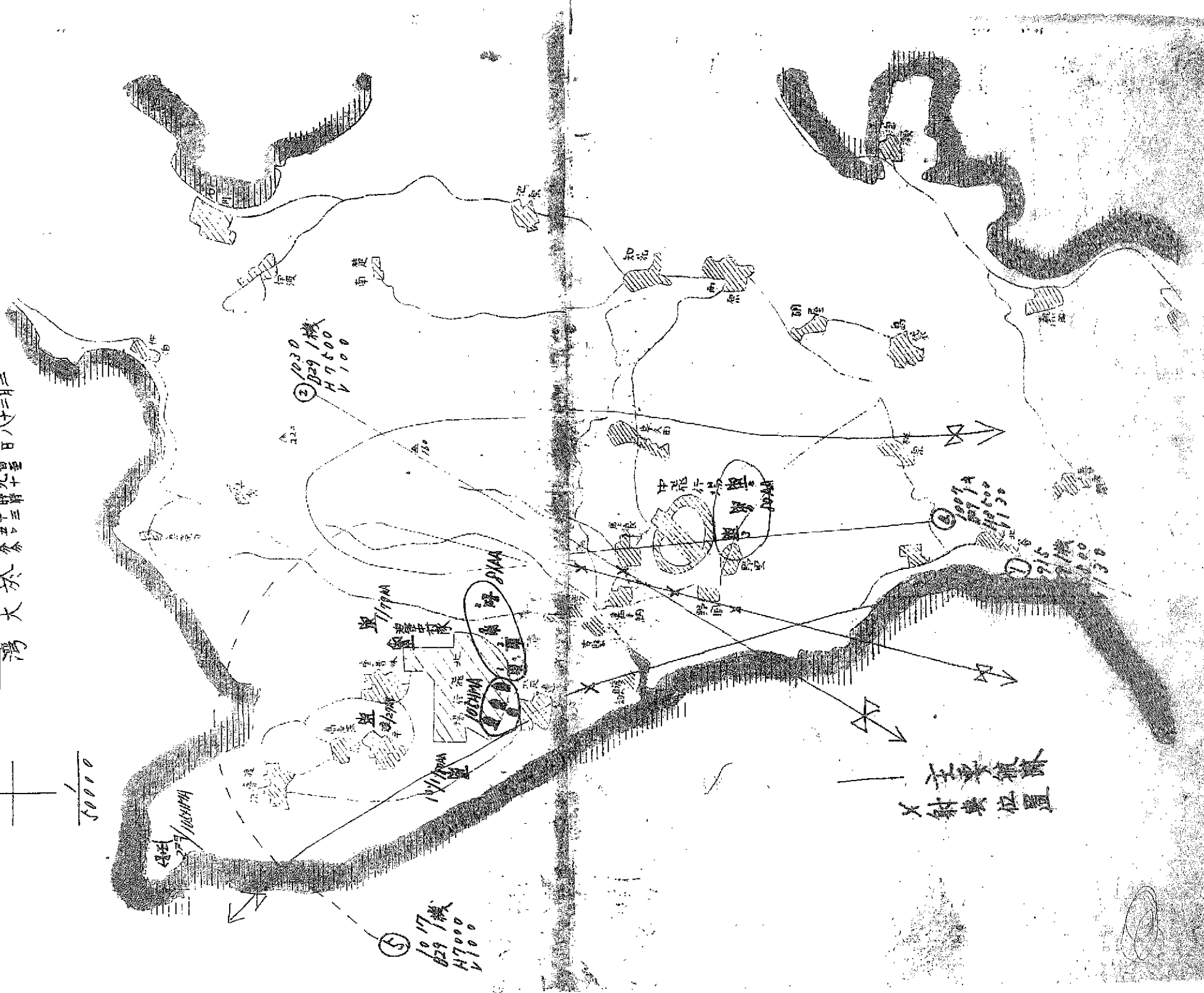
臺灣第一圖要網信通並置配隊部射高





敵機未狀沉要圖
 二日十八日不戰五十三號
 參余

敵機未狀沉要圖
 二日十八日不戰五十三號
 參余



主要航線
 X射擊位置

圖要流線來砲敵

海大於加四時九日八月二至

圖附詳斗戰

二其三第

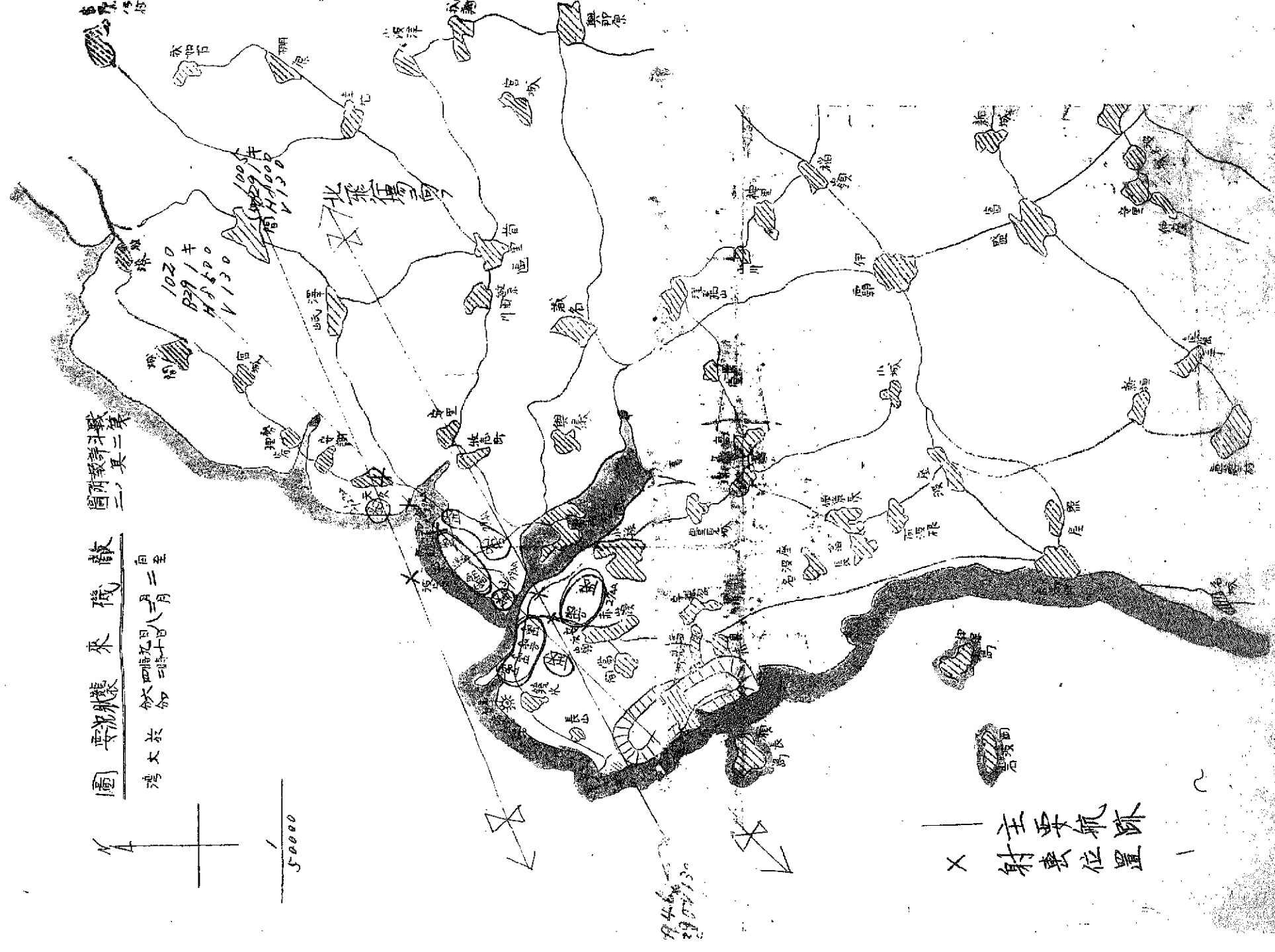
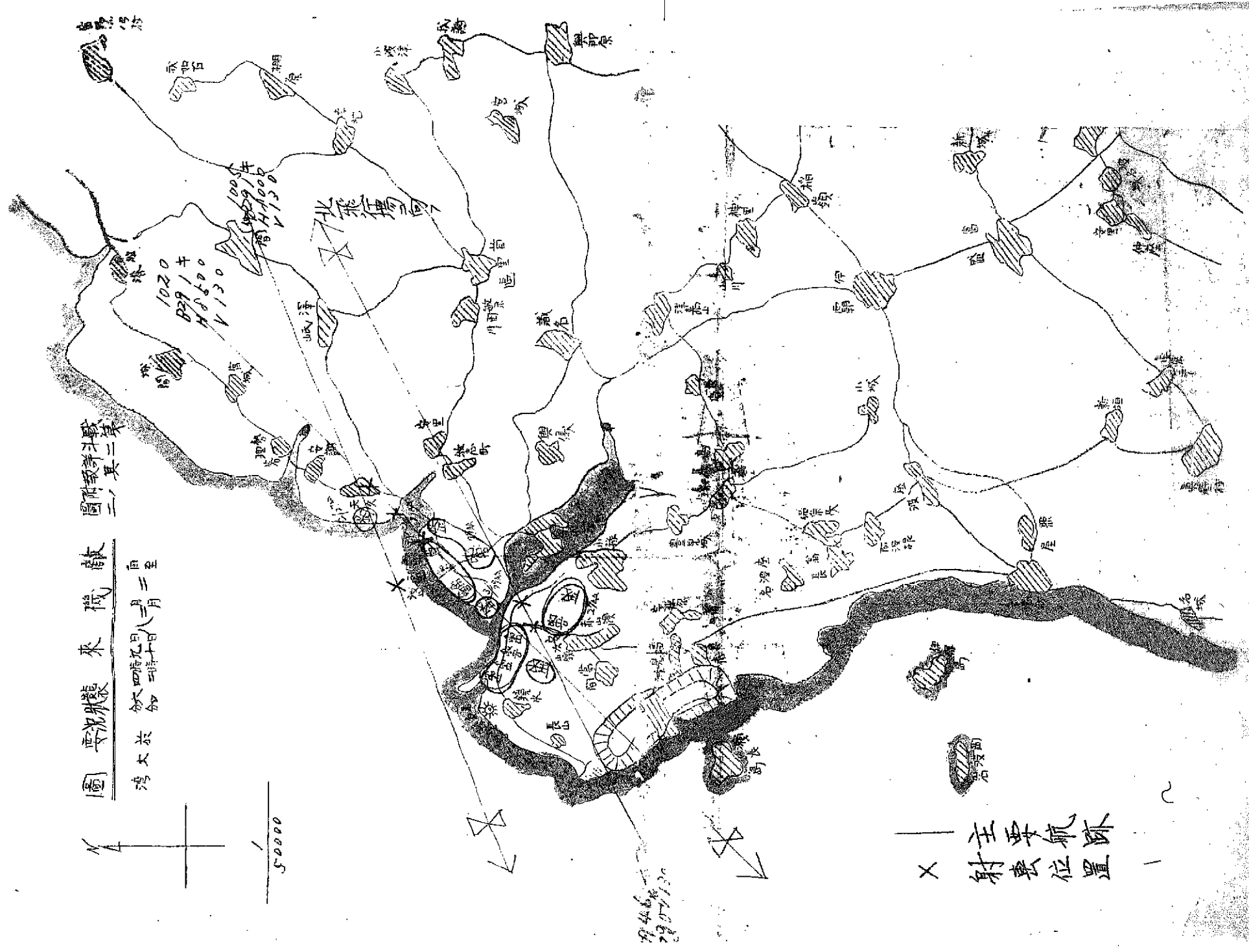
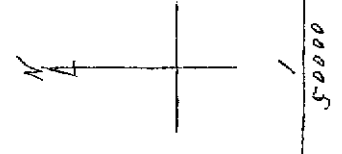


圖 要況裝來機敵 圖附戰詳斗戰 三、集二第

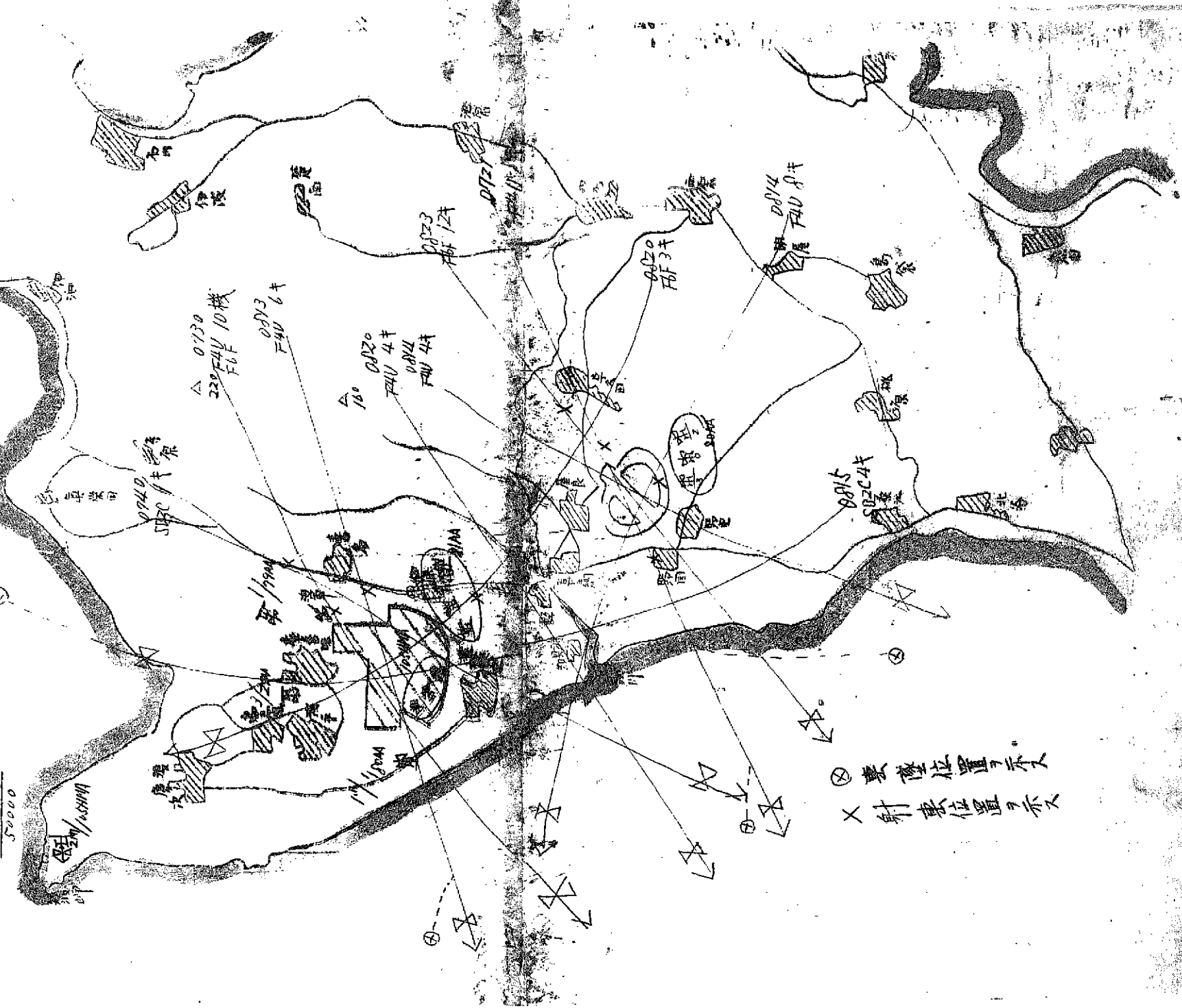
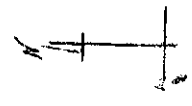
鴻大於 於四時九日八月二至
加 班 十 月 二 日



— 主要航跡
X 射擊位置

敵飛機襲擊狀圖

三月一日 上午八時一十分

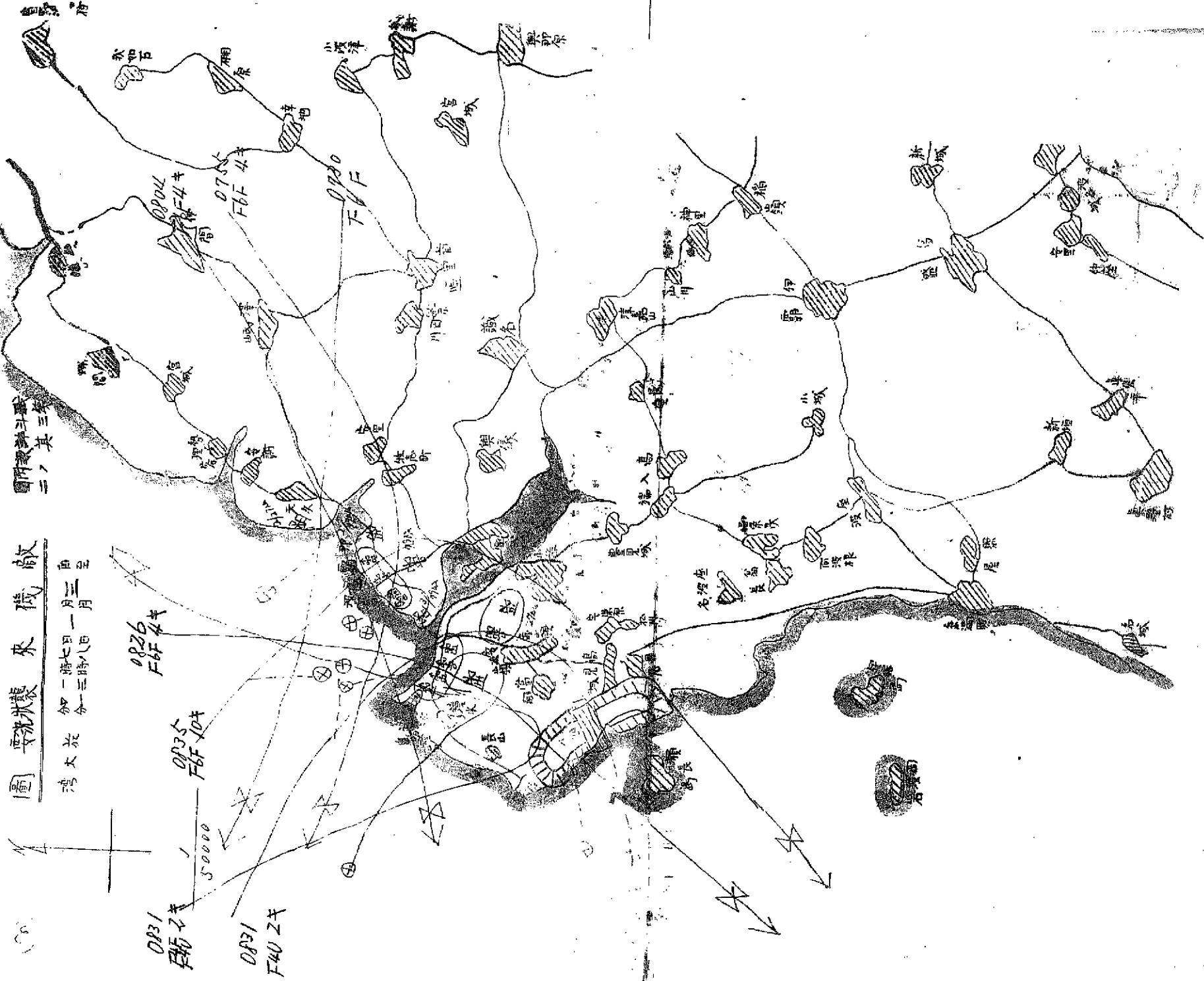


⊗ 襲擊位置之示
 × 射擊位置之示

圖 要況狀襲來俄敵

圖所繪戰鬥狀
二、其三第

志大北 加一聯七四一月三
分一三時八四

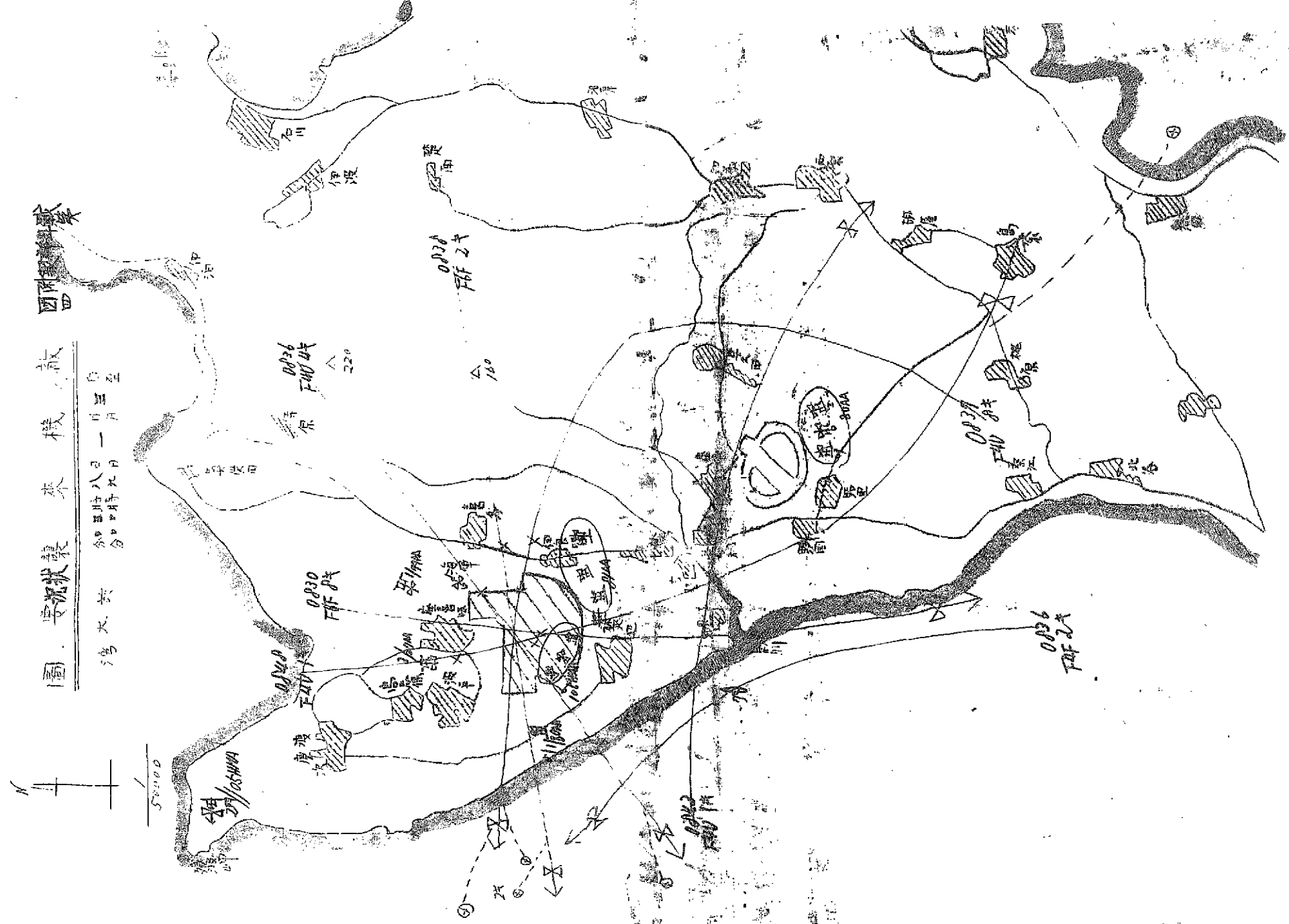


敵機來況要圖

至三月一日時八時

至九月時

共六天



圖說狀襲來機敵圖詳半襲

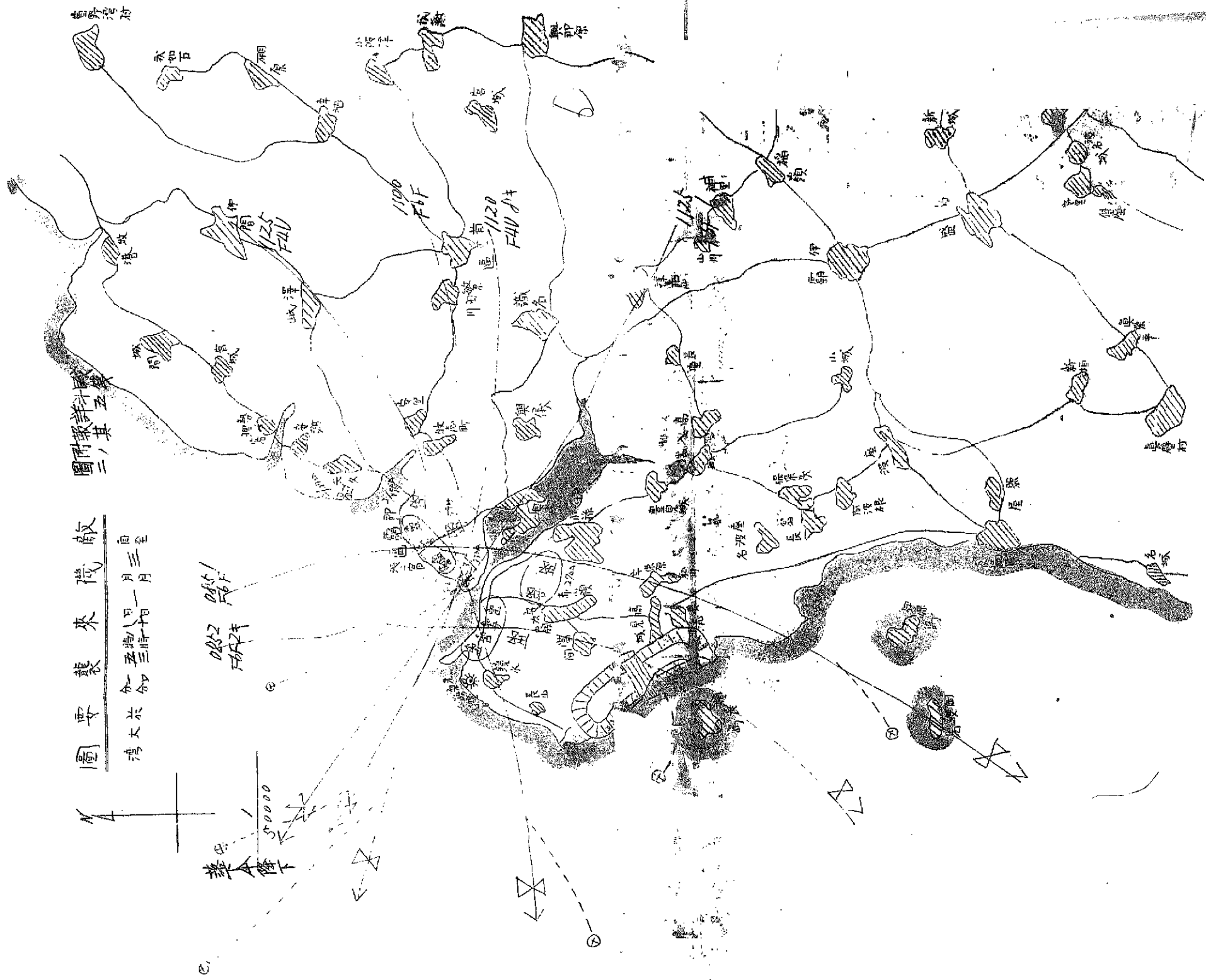
鴻大於 加時九日一月三至



圖要襲來茂敵

自三月三十一日
加三時和
大共

圖附報詳
三其五



華軍南下

50000

F42
F43

F44
F45